



---

# GK情報レポート

【2008年発行】

vol. 18

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

## Contents

1. 創業90周年にあたり
2. 元気なモノ作り中小企業300社 2008年表彰
3. 新連携/モノ作り中小企業全国フォーラム 出展
4. かながわR&D技術展示会 出展
5. 銅丸棒の製造範囲
6. 権田金属の沿革（第16回）『権田ビル建設』
7. 相場情報『2008年第4四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回 覧 印										

※バックナンバー（Vol.1～17）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

## 1. 創業 90 周年にあたり

代表取締役社長 権田 源太郎

当社は今年の 10 月 10 日で創業 90 周年を迎えました。

1918 年（大正 7 年）に権田藤三郎が横浜で黄銅棒の生産を開始したのが当社の始まりです。権田藤三郎は権田家の三代目で、それまでは地金商をやっていました。地金商としてうまく行っていました。権田藤三郎はものづくりを通して社会に貢献できる仕事がしたいということで、黄銅棒の生産を志しました。なにぶん素人でしたので、初めのうちは大変な苦勞をしたそうです。やっとうまく行き出した時に 1923 年（大正 12 年）の関東大震災に見舞われました。工場は灰燼に帰しましたが、不屈の闘志で再建に当たりました。やがてその苦勞が報われ、工場も軌道に乗り品質も評価されるようになり、海軍の指定工場になるまでになりました。しかし太平洋戦争末期の横浜大空襲で、工場はまたも灰燼に帰しました。権田藤三郎は「もうダメだ、田舎に帰ってゆっくり余生を送ろうか」とまで思ったそうですが、お客様の勧めもあり三度目の再建に取り組みました。再建途上の 1950 年（昭和 25 年）に権田藤三郎が亡くなった後は、父の権田忠志が社長となりました。戦後の不況で大変な時期でしたが、1953 年（昭和 28 年）からの朝鮮戦争の特需で息をつくことができました。同年、黄銅棒だけでは将来は難しいということで銅棒、銅ブスバーの生産を始めました。現在の生産量は、銅が 3、黄銅が 1 の割合で銅の方がはるかに多くなっています。

1963 年（昭和 38 年）には、本社工場を横浜から相模原に移しました。横浜の跡地にはビルを建て、スーパー・ダイエー様に貸すことによって現在も安定収入を得ています。

1997 年（平成 9 年）に工場に隣接する土地を買収し、工場の遊休地と合わせることで、ゴルフ練習場「ボールパーク」を開業し、地域の皆様方のご愛顧を受けています。今から 6 年前の 2002 年（平成 14 年）に、マグネシウムの板の研究開発を始めました。去年の 3 月には専用の量産工場が完成し、現在は量産化に取り組んでいるところです。

マグネシウムは実用金属の中で一番軽いものです。「軽いことは省エネに良い」「省エネに良いことは環境にもやさしい」「金属だからリサイクルも出来る」ということで、社会にとっても非常に有益なものと考えています。当社としては、今後マグネシウムを事業の第三の柱にしようということでさらに改良を進めていきます。

今年の 6 月には、経済産業省肝入りの「元気なモノ作り中小企業 300 社 2008 年」に選ばれました。モーターに使われる銅のエンドリングにおいて高いシェアを有する事とマグネシウム合金 AZ61 板材の量産開発の二点が特に評価されました。当社としましては、この二点はもちろんの事、他の技術もさらに磨きをかけ、お客様のニーズに応えて行きたいと思っております。

会社の平均寿命が30年と言われるこの厳しい世の中にあつて、当社が90周年を迎えることが出来たのは、お客様や仕入先様が当社を育て支えて下さったお蔭であります。心より感謝申し上げます。

また、困難な時期にも努力を続けてきた創業者や先代社長、社員の皆様にも感謝すると共に敬意を表します。当社は今後も「良品共栄」の理念の下に、良い製品の提供により社会の進歩発展に貢献し、お客様、仕入先様、地域の皆様、そして私ども社員一同が共に栄えるように努力して参る所存でございます。引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

権田金属工業株式会社の創業90周年を記念して当社社員の家族と関連会社社員とその家族の方々をお招きして、工場見学会と記念の式典を行ないました。



## 工場見学

工場見学会では、各工場で実際に作業している所をご覧頂きました。社員の家族の方々は、普段見ることのない工場設備や作業工程、社員の真剣な表情や作業風景を見て非常に感心されておりました。

左写真：工場見学風景

## 祝賀会

創業90周年記念祝賀会は工場見学会終了後、会場を近くのけやき会館(大樹の間)に移して社員、社員の家族、合わせて約150名が出席し約2時間に渡って行ないました。祝賀会では社長の挨拶、毎年恒例の永年勤続表彰に続き、専務の音頭で全員で乾杯しました。祝宴では普段あまり接する事の少ない職場の社員や関連会社の社員、またその家族がそれぞれ楽しく歓談されていた様子でした。



権田社長挨拶

歓談風景

(記者 日吉)

## 元気なモノ作り中小企業 300 社 2008 年 表彰

### 2008 年度経済産業省『元気なモノ作り中小企業 300 社』に選ばれました！

『元気なモノ作り中小企業 300 社』は、2006 年より全国の経済産業局、独立行政法人中小企業基盤整備機構、商工組合中央金庫及び中小企業金融公庫が、そのネットワークを通じて集めた公開されている情報等に基づき、全国各地で活躍する独自の高い技術を持つ中小企業 300 社を毎年選定しています。

多くの中小企業の中から 300 社を選定するに当たっては、企業の持つ技術力の高さ、世界・国内市場において高いシェアを有する製品が国民生活・経済活動に与える影響の大きさ、各企業の国際貢献等も踏まえ、中小企業政策審議会経営支部部会に設置した『元気なモノ作り中小企業 300 社』検討委員会にて選定されます。



当社はその 2008 年度経済産業省『元気なモノ作り中小企業 300 社』に 6 月に選定され、7 月 10 日都内のホテルにて感謝状の授与式が行われました。授与式には甘利経済産業大臣(当時)が出席され、関東甲信越静地区の企業が出席し、甘利大臣(当時)より表彰状と記念の盾が授与されました。

当社は産業用モーターに使用される銅リングの製造と、マグネシウム合金 AZ61 の薄板量産開始が評価されました。産業用モーター(電車、機関車他)に不可欠な「モーターリング」製造ではシェア 60%以上を持ち、特に精度や強度が要求される新幹線にも使用されています。

(記者 吉田)

### 3. 新連携/モノ作り中小企業全国フォーラム 出展

全国約 500 社の中小企業による展示会に出展

主催：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

共催：経済産業省中小企業庁

後援：日本商工会議所、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、  
中小企業金融公庫、国民生活金融公庫、商工組合中央金庫 他

2008 年度経済産業省『元気なモノ作り中小企業 300 社』に選定されたのを期に、  
2008 年 8 月 5 日(火)、6 日(水)の両日東京国際フォーラム展示ホールにて  
開催された『新連携/モノ作り』の展示会に出展しました。

当社は 2008 年度経済産業省『元気なモノ作り中小企業 300 社』に選定された対象品  
の銅リング、開発製品であるマグネシウム合金薄板を中心に展示しました。

開催初日に行われたオープンセレモニーには、経済産業省中小企業庁の  
長谷川長官も挨拶され、盛大に開催されました。

開催期間中は、全国より製造業、流通業、金融業、マスコミ他多種多様な業種  
の方々 20,000 人が来場されました。

当社の展示ブースにも 2 日間で 120 名以上の方が、当社の製品、技術に関心を  
持って立ち寄られました。特にマグネシウム合金薄板(AZ61)のコーナーでは、  
多くの方々に同形状の銅製品との比較で、重量が銅の 1/5 のマグネシウムの  
軽さを実感して頂きました。

また品質、特性、需要、用途等数多くの突っ込んだ質問を頂戴し、マグネシウムに  
対する関心の高さが伺えました。



(記者 吉田)

## 4. かながわ R&D 技術展示会 出展

2008 年 8 月 7 日(木)「かながわ R&D 技術展示会」が  
キャンノン(株)本社で行なわれました。

主催:キャンノン(株)、かながわ R&D 推進協議会、神奈川県  
共催:神奈川県産業技術交流会

当社はマグネシウム AZ61 の薄板、プレス成型品、鍛造品、スポット溶接、表面処理、  
メッキを施したマグネシウム AZ61 の板材を展示しました。

当日は 10 時 45 分セレモニーが行なわれ、神奈川県・松沢知事、キャンノン(株)  
内田社長が挨拶されました。松沢知事の挨拶の中に中小企業の Only One 技術を  
大企業に紹介し、共同研究など技術連携のきっかけを紹介する場として役立てて  
欲しいとの話があり展示会がスタートしました。

会場にこられた入場者数 464 名、当社のブースを訪れ説明を聞かれた方は 54 名に  
上り、マグネシウムへの関心の高さが伺えます。

松沢知事、内田社長のお二人が当社のブースを訪れ、マグネシウムについて説明を  
致しました。また、パソコンの筐体のサンプルを手にとられて軽量であることを実感  
された様子でした。

当社はインベスト神奈川に選ばれています。



(記者 営業開発部・高安)

## 5. 銅丸棒の製造範囲

当社で製造、販売している銅丸棒は寸法精度に優れており、曲がりがない為精密加工、機械加工しやすい、歩留まりが良いなどお客様にご好評を戴いております。

当社は太物のイメージが強いですが、銅丸棒は6Φから製造しています。

当社の銅丸棒の製法は2種類。

- ① 熱間圧延または熱間押出後冷間引抜により仕上る方法(6Φ~110Φまで)
- ② 熱間鍛造後旋盤加工により仕上る方法(110Φ超~350Φ)

また、大きいサイズの径や特殊なサイズでも自由に製造することが可能です。

標準品:C1100 タフピッチ銅棒 製作品:C1020 無酸素銅棒

銅丸棒の製造範囲 (表1)

製法	径	標準長さ
引抜	6Φ~ 95Φ	4000 mm
	95Φ超 ~ 110Φ	3900 mm (100Φ) ~ 3500 mm (110Φ)
鍛造	110Φ超 ~ 200Φ	2500 mm (115Φ) ~ 1500 mm (200Φ)
	200Φ超 ~ 300Φ	1500 mm (210Φ) ~ 1000 mm (300Φ)
	300Φ超 ~ 350Φ	1000 mm (310Φ) ~ 700 mm(350Φ)

※ 95Φ超の製品は乱尺のため長さはあくまで目安です。

350Φ以上のサイズに関しても御相談に応じます。

C1100 在庫サイズ (表2)

(単位 m/m)

18Φ×4000	36Φ×4000	70Φ×4000	130Φ×長物
19Φ×4000	38Φ×4000	75Φ×4000	140Φ×長物
20Φ×4000	40Φ×4000	80Φ×4000	150Φ×長物
22Φ×4000	45Φ×4000	85Φ×4000	160Φ×長物
25Φ×4000	48Φ×4000	90Φ×4000	180Φ×長物
28Φ×4000	50Φ×4000	95Φ×長物	200Φ×長物
30Φ×4000	55Φ×4000	100Φ×長物	—
32Φ×4000	60Φ×4000	110Φ×長物	—
35Φ×4000	65Φ×4000	120Φ×長物	—

表記以外のサイズについても御相談に応じます。

(記者 工藤)

## 6. 権田金属の沿革

### 権田ビル建設

(昭和 43 年 11 月第一権田ビル完成、昭和 47 年 4 月第 2 権田ビル完成)

第一権田ビル建設にあたって会社が用意した資金は 2 億 8 千 4 百万円でした。テナントはサンコーが入居しました。家賃収入は本社工場の合理化資金に投入しました。昭和 44 年から 45 年にかけてはまたもや不況だっただけに、第一権田ビルは会社の命綱にもなりました。

ところが一方で、日本住宅公団に売却した土地代金の入金を、当時の顧問税理士が 2 回に分けて申告したことにより、厚木税務署から約 2 千 6 百万円の追徴金請求を受けるにいたりました。このため会社は国税局を相手に「国の政策に協力しているのになぜ追徴金を払わなくてはならないのか」と主張し認められ、支払わなくても済むようになりました。第一権田ビル建設が一段落した後、横浜の残された土地 530 坪にダイエーをテナントとした第二権田ビルの建設に着手しました。地下 2 階、地上 8 階建ての第 2 権田ビルを昭和 47 年 4 月に完成しました。第一権田ビルのテナント、サンコーは後にダイエーに吸収合併されたため第一、第二権田ビルともテナントがダイエーになりました。

## 7. 相場情報

### 1. 電気銅建値推移

- 08 年 7 月・・・980 円スタート(7 月平均 954.0)
- 08 年 8 月・・・940 円スタート(8 月平均 893.3)
- 08 年 9 月・・・870 円スタート(9 月平均 808.0)
- 08 年 10 月・・・730 円スタート

### 2. LME 在庫状況及び需給状況

LME 指定倉庫在庫は 2008 年 7 月初旬には 12 万トン前半と低水準の在庫量であったが 7 月後半から入荷が増え 8 月前半には 14 万トン台、9 月前半には 20 万トン台と現在も在庫量は増加傾向にある。

需要面では、大規模なインフラ整備の必要な新興国や中東諸国の設備投資は旺盛ではあるが、米国で端を発したサブプライムローンの影響が一段と悪化し、世界景気が減速。また世界の銅消費国の中国での需要が減退してきており、今後需要は減少傾向に向かうと思われる。

供給面ではアフリカ地域での停電やチリ、インドネシアでの銅品位の低下と鉱石処理量の減少などの問題はあったものの、2008 年 9 月末から中国国内最大級の埋蔵量を有する銅鉱山が操業開始するなど、今後も採掘量は増加傾向にある。



### 3. 為替の見通し

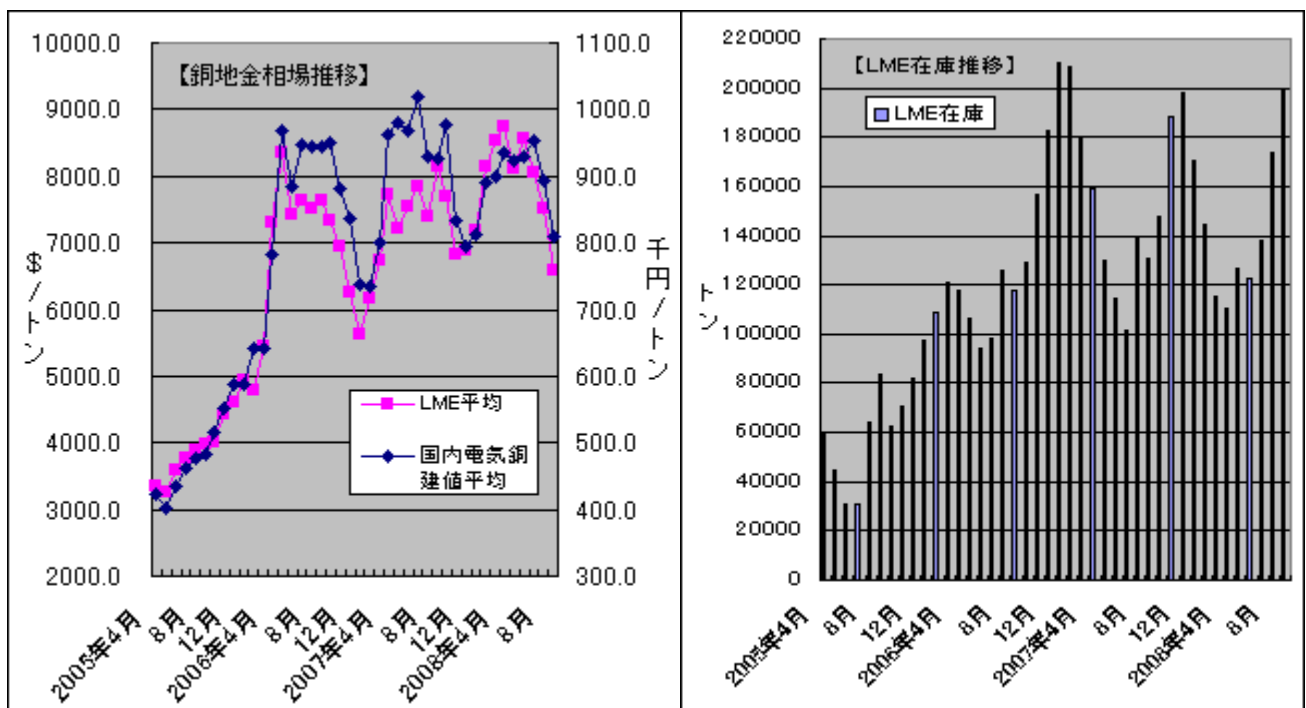
サブプライムローンの影響により米大手金融会社で巨額の赤字計上や経営破綻などが続出。これを受け米国で金融安定化法案が立案。しかし9月29日に下院で否決され、世界的な株価急落を引き起こした。10月1日協議の仕切り直しが行なわれ金融安定化法案修正案が上院で可決。同月3日下院でも可決されたが、金融不安の影響は世界全体に広がっており、実体経済に悪影響を及ぼす可能性が高いとの見方から、各国の株式市場で株価が大幅に下落している。

また成長著しい中国でも影響は出てきており、3年ぶりに成長率が1ケタ台(9%)と落ち込んだ。以上の事から今後は円高・ドル安の図式になると思われる。

### 4. 相場の見通しと予測

6月、7月はLME \$8,000~8,500で推移していたが、金融不安の影響により、銅相場は8月初めから下落し始め、8月末にはLME \$7,500台、9月末にはLME \$6,500台、10月18日にはLME \$4,701まで落ち込んだ。

今後の見通しは、新興国を中心とした堅調な需要はあるが、世界的な景気後退懸念は強く、しばらくは弱基調が続くと思われる。



短期予測 (1M) : LME \$ 4,400~5,400      為替 100~105 円  
銅建値 490~610 円

中期予測 (3M) : LME \$ 4,100~6,500      為替 99~104 円  
銅建値 470~700 円

(記者 工藤)